

平成 28 年度 第 1 回 清瀬市史編さん委員会  
議事要旨

日 時： 平成 28 年 7 月 4 日（月）  
午前 10 時～12 時

場 所： 第 2 委員会室（清瀬市役所本庁舎 4 階）

出席委員： 根岸茂夫、栗山 究、浅倉直美、黒川徳男、谷口康浩、齊藤隆雄、  
齊藤靖夫、坂間和英、岡田耕輔、黒田一美、小西一午、中澤弘行（12 名）

欠席委員： 高村聰史（1 名）

事務局： 企画部長、市史編さん室長、市史係 2 名（4 名）

《次 第》

1. 開 会
2. 平成 27 年度事業報告書について
3. 平成 28 年度事業予定について
4. 市制施行 50 周年記念の取り組みについて
5. その他
6. 閉 会

《配布資料等》

1. 会議次第（平成 28 年度 第 1 回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 平成 28 年度事業予定（各専門部会）【資料 1】

《審議経過》

1. 開 会

委 員 長

本日はお忙しい中、また暑い中お集まりいただきありがとうございます。これより、平成 28 年度第 1 回清瀬市史編さん委員会を開催します。

今回の会議では主に市制施行 50 周年記念の取り組みについて一定の方向を定めていきたいと考えておりますので皆さまご協力をお願いいたします。

議題に入る前に、事務局より配布資料についてご説明いただきます。

事務局 (配布資料について説明)

## 2. 平成 27 年度事業報告書について

委員長 では、議事に移ります。「平成 27 年度事業報告書」について、事務局からご説明願います。

事務局 市史編さん事業の年度ごとの透明性を確保することから、今後、年度の終了時に事業報告書を作成していきたいと考えています。形式的には今、ご参考までに仮の形式で作ったものをお返ししますが、このような形を考えております。主には各部会の動向、事務局の動向、大きな機器を購入した場合などにはこれを記載し、最終的には、ひとつにまとめて資料として備えていきたいと考えております。

平成 27 年度につきましては、古代・中世部会の調査報告が主なものとなっておりますが、活動内容を、写真も付けて報告書としてまとめました。また近代、現代部会では聞き取り調査を行っていますので、その概要を掲載しています。

委員長 何かご意見があればお願いします。

考古部会の作業については、報告には入らないのですか。

事務局 現在市にある報告書の整理を職員が行ったものでしたので、今の時点では入っていません。そういったものも入れたほうがよろしければ入れたいと思います。

委員長 編さん室でいろいろな資料を集めたりしておられます。そうしたものも入れたほうが全体の事業がわかるように思いますが、いかがでしょうか。委員のみなさんからご意見をください。

考古部会長 先ほどお話に出ました考古部会の作業成果品としては、既に発掘調査され報告された資料を資料カードに再整理し、時代別に配列したのがあります。概要は昨年度最後の委員会で報告しましたが、成果品としてはたいへん分厚いものですので、そのままこの報告書に載せるのは難しいと思います。概要でよければ、いつの遺跡の何枚の資料カードを作成済みであるといったことを、その報告書用にまとめることはできますが。

委員長 成果報告の概要はあったほうがよいと思います。また、市内の渋谷家文書などを編さん室で調査しておられますが、そういったものも載せられた方がよいと考えます。せっかくですので、やったことを集約しておいた方がよいでしょう。そのほかにご意見いただけますか。

委員 集められた資料は我々も見ることができるでしょうか。

- 委員長 原則的としては公開するべきと思います。ただ、調査中ということで確定したわけではないようなところについての公表は、市史の事業のなかで行わなくてはならないのではないかと思います。
- 委員 考古部会長 せっかくの資料ですので、見られる機会があるとありがたいです。  
この報告書は統一の様式で作成するのですか。今後、調査を進める中で記録をどのように残すべきかの検討ですが、様式が統一されているのであれば、それに則って記入していくことになるでしょうか。
- 委員長 これはあくまで事務用の報告書です。部会によって性格も違いますので、専門部会の調査についての整理、報告書は各部会それぞれでよい気がします。
- 副市長 市としましては、5つの専門部会で1年間こうした調査研究をした、という報告書をまとめる必要があるということで事務局に指示しました。調査研究のあらましをわかりやすくまとめる事務用ということでご理解いただきたいと思います。
- 古代・中世部会長 すると、この委員会だけでなく外部の方も閲覧されるのでしょうか。というのは、古文書の写真についてはデリケートな部分があり、公開について非常にこだわられる方もあるので、写真の扱いについては検討が必要かと思います。
- 副市長 市としては公表していきたいと思っていますので、そういう問題があれば写真を縮小するなど専門部会の委員の方々と調整しながらまとめたいと思います。
- 古代・中世部会長 古文書の写真については、市史に掲載するため、として許可をとっているものなので、市史が出る前の段階でどなたにもお見せするというわけにはいかないものであることをご理解ください。
- 副市長 そういうことであれば、削除します。
- 古代・中世部会長 報告書に写真が必要ということであれば、別の形で、例えば近現代部会の写真のように、調査に行った者が写った写真を今後撮ってきますので、古文書でない写真での作成を検討いただくと助かります。
- 副市長 事務局と調整したいと思います。
- 委員 近世以降の文書ですと、金銭の貸し借りの記録もかなりあります。関係者が市内に在住の場合には問題が起りかねないので、そうした配慮も必要でしょう。
- 委員長 所蔵者の意向、個人情報保護についても注意しながら作っていかねればと思います。いろいろ意見が出まして、さらに良い報告書になるのではないかと思います。他に何かございますか。  
それでは平成27年度の事業報告書につきましては、今日の意見をふまえ

て作っていただいて、次回また見せていただくということによろしいでしょうか。

委 員 了承

### 3. 平成 28 年度事業予定について

委 員 長 続きまして議題 3「平成 28 年度の事業予定について」に移りたいと思います。

すでに前回 3 月の会議において各部会より示していただいておりますが、変更がある部会についてはここで訂正していただければと思います。考古については、これによろしいでしょうか。

考古部会長 はい。

委 員 長 古代中世については、すでにあちらこちらに調査に行っておられますが、さしつかえなければそれも併せてご報告ください。

古代・中世部会長 基本的な部分は、お示ししました事業計画の通りに調査を進めています。今年度につきましては、先方の都合もあって順番が入れ替わってはいますが、4 月の段階で千葉県の文書館、埼玉県立文書館、その後、福井県越前大野の五畿屋文書と武生の岡部家文書の調査を既に行いました。8 月に米沢の上杉家文書の、一般には写真の載っていない文書の調査を行う予定です。調査先は随時事務局の方であたっただき、調査を進めていきたいと思っています。

委 員 長 ありがとうございます。

近世については、遅れている状態ですがこの形で行う予定です。

近代、現代部会についてお願いします。

現代部会長 積極的に市民からのききとりを進めていきたいと思っています。戦争中のききとりについては特に早めに進めていかななくてはならないと考えています。成果報告は、『市史研究 きよせ』に積極的に載せたいと思っていますのでご協力よろしくをお願いします。

委 員 長 予定について各部会から説明がありましたが、なにかございますか。よろしいでしょうか。

委 員 了承

### 4. 市制施行 50 周年の取り組みについて

委員長 では、続きまして議題4「市制施行 50 周年の取り組みについて」に移ります。基本的な考え方について副市長よりお願い致します。

副市長 以前より、市政施行 50 周年にあたり、なにか記念誌的なものを発行したいという話をさせていただいております。市としましては、写真を基本的に、まちの移り変わり、生活様式などがわかるものを発行したいと考えています。市史編さんの方で出しますので、年表的なもの、市史編さんにかかわる内容も取り入れてはどうかと思っています。

市制施行 50 周年の記念誌としては東村山市、国分寺市のそれぞれの例がありますので参考にさせていただけたらと思います。予算の関係もありますので、国分寺市の 150 頁近い立派なものと同じようにはいかないかもしれませんが、東村山のように、写真を基本にして少し市史編さんにかかわる内容を取り入れたものができればと考えています。

今年度中にある程度の骨格を委員会にお示しし、委員のみなさまのご意見を取り入れながら進めていきたいと考えています。

委員長 いまのご説明につきましていかがでしょうか。

東村山の例は、東村山のふるさと歴史館という博物館の企画展示の図録です。50 ページ程度の薄いもので、大字別に近代の歴史をまとめています。簡単な地区の歴史を書き、それに関するような写真を並べて歩みを表しています。

国分寺市の例は、目次にありますように、時代別の編集に資料編を加えた 140 頁程度の図録になっています。見開きでひとつの項目が立っており、近世の「尾張藩の鷹場」の例ですと、テーマに関する市内の古文書、図、写真などを入れています。

新しく調査をしたというよりも、いろいろなところの図録などを集めてその地図を使うなど、割と手間をかけずに成果をまとめている感じを受けます。民俗的なことも入っており、工夫が見えます。原始を扱う第 1 章では、川や地層にもふれています。また、資料編として統計が載っています。

副市長のご説明ですと、こうしたものが検討の土台になるということだと思いますが、委員のみなさんからご意見をいただけますか。

委員 冊子を発行されるのは非常によいと思います。市制施行 50 周年記念の行事をやられるかどうかわかりませんが、冊子に書かれたことを市民の方に具体的に知っていただくためにも、いくつかのコースを設定して市内を実際に歩いてみるといった企画も行事のなかに組み込んではいかがでしょうか。清瀬郷土研究会・清瀬を歩こう会では、昨年から 7 回ほど企画して市民の方々とご一緒に市内を散策していますが、昔から住んでおら

れる市民の方だけでなく、清瀬の事は全く知らないという方もおられ、歴史・文化などに触れると非常に関心を持たれます。市制施行 50 周年を機に先生方にお話をさせていただき、市民の方に歩いていただくコースをいくつか提示して歩いていただくなど、冊子だけでなく行動することも加えていただけたらと思います。

委員 去年は戦後 70 年ということで、いろいろな自治体で戦争体験、戦後の体験までを含めて手記を募集し、それを冊子にまとめるというような事業が行われました。清瀬ではそういう事業は行われていないので、市制施行 50 年を機会に、戦争中から清瀬の 50 年位前までの手記を募集して、エッセイ的なものまでを含め、発行する冊子の半分くらい、そういった手記を掲載するようにすれば、市民参加型のものにでき、市史編さんでは拾えないような話、市史と重複しない部分を拾ってくるができると思います。手記の募集を提案します。

委員 今これから手記を書くのではなく、新聞の囲み記事などで清瀬のことが掲載されたものが集約できれば、今のお話と一脈通じるものがあるかと思えます。今になって思い出すより、記憶が新鮮なうちに書いたものは生々しいものもあります。

もうひとつ、申し上げたいのは、市制施行 50 周年を記念する取り組みは、どういう性格のものか、きちんと決めていかないといけないのではないかということです。

中間報告的にやるのなら、市史が完成したときにはどうなるのか、改定を前提に作るのか。市史とのかかわりをどうするか。学校の副読本のベースになる資料だとすれば、それも配慮しなくてはならないでしょう。市史に含まれないようなことも入れたほうがよいなら、それも含まなくてはならない。

そうすると市史編さん委員会の範囲からは外れた部分も入ってきます。そういう部分に関しては、これまで博物館が刊行した出版物があるので、専門部会の先生方に見ていただいて中身を吟味した上で、参考文献として挙げて、これに関しては何々を見よ、という示し方でもよいかと思えます。

委員 記念誌がどうあるべきか、時間をかけて検討したほうがよいと考えます。市史と並行して作るのではなく、市史の本編とは別に、市制施行 50 周年記念という形で考えるべきだと思います。

委員長 ここで編さんする市史とは性格の別の物を考えるべきだというお話ですね。基本的に、市史を簡単にしたものを作るのではなく、本格的な市史への入り口のようなものができればよいのかなと思います。

国分寺の例など、通史になっているわけではなくトピックだけです。さきほどのさまざまなご意見のなかで、歩くコースや講演会も重要なことと思いますし、市史と重複しない形で手記をとというのも重要な提案だと思います。新聞などに掲載されたものを集めてみるのもトピックになるという意味でもおもしろいと思います。

大部な、分厚いものを作るというよりも、少なくとも市民の方々に手軽に手にとってもらえるものを作らないと、せっかく作っても役割が果たせない気がします。安価に手渡しできるような形で提案を考えていただき、記念誌がどういう性格のものか、それをきちんと整えていただいたうえで、このような記念誌を、という提案を次回お願いできればと思います。

大枠の作成を事務局の方をお願いするということがよろしいでしょうか。

委員  
委員長  
委員

了承

ほかにご意見ありますか。

市制施行 50 周年記念誌となると、市制施行から 50 年、市としてどうい  
うことをやっていこうかということが大もとにあるべきではないかと思  
います。そのなかで歴史、つまり市史にふれる部分もあろうかと思いま  
す。市制施行 50 周年の統合的なイベントのなかで考えるものではないで  
しょうか。やがてできる市史の予告編である必要はない気がします。こ  
こに暮らす市民からすると市になって 50 周年より前の歴史があるのだから、  
市制施行より前をどう扱うか検討が必要でしょう。写真集は博物館  
からすでに 2 点出ていますから、既刊のものとの競合性も勘案しながら  
作っていかなくてはならないと思います。

委員

市史に関心を持ってもらうためにこうした冊子も必要かと思いますが、  
ひとつの項目について写真も入って見開き 2 頁では、ほんとうにさわりの  
部分にしか触れられないと思います。関心を持ってもらうにはその程  
度でよいかと思いますが、考古から近代まですべてを入れるかどうかは  
検討の余地があると思います。清瀬の歴史にはこうした項目があるとい  
うことで関心を持ってもらい、もっと詳しいことは市史で、ということ  
で見出し的に冊子ができていればいいのかなと思います。

委員

市からいろいろな刊行物が出ていますが、いかほどに頒布されているの  
か気になるところです。郷土博物館が出している双書は 1 冊 2 千円です  
が、市はこういうものをどの程度、頒布、販売するつもりでしょうか。  
お金をかけて作成して 1 冊 2 千円で売る。清瀬でこういう年中行事があ  
ったということを知ってもらうために作ったと思いますが、そんなには  
売れないと思います。むしろ、人の大勢いるところ、病院や美容院など  
に置いておけば、売上 2 千円の価値よりも中身を知ってもらうためには

もっと価値があるのではないかと思います。作ったことで満足してはいけ  
ない。官公庁の刊行物は往々にして在庫の山になることが多いで  
すが、多くの人に見てもらい知ってもらうことが大切なので、なにか工  
夫が必要と思います。市制施行 50 周年を記念して作るのであれば、それ  
は清瀬の歴史を知ってもらう良い機会になると思います。

今年で戦後 71 年です。終戦時に 10 歳でも現在 80 歳。だんだんと戦争を  
知っている人がいなくなり、話はみんなまた聞きになります。話は蛇行  
するし、ふくらんだり縮んだりするし、どこかどうだかわからなくなる  
ものです。書いたものがきちんとあって、それが立証できるものがあれ  
ばよいですが、ないとあやふやなものになります。作るならきちんと作  
らなくてはなりません。激変の昭和の時代、そこにいた人たちから話が  
聞けるうちに着手しないと、記憶はどんどん薄れてきます。この仕事は  
先送りができません。早急にしなければなりません。

家の裏に大きな樹があったが、通信所の邪魔になるから切ったという話  
をその家の人から聞きました。そうした戦時にまつわる話がいろいろあ  
り、急いで収集する必要があります。農協ができる時の話もそうです。  
政治がからむと難しいですが、集約して残すのは急ぐ話です。し尿溜が  
どこにあり、どうやって集め、農家にどうやって配分したのか、きれい  
な話ばかりでなくそうした話題もきちんと残しておくべきと考えます。

委員 長  
現代部会長

現代部会でぜひお話をきく機会を持ってください。

はい、ぜひお願いします。

さきほどから市史とは別の視点で作るという意見が出ています。市史で  
触れない、あるいは少ししか触れられないテーマ、例えば国分寺市の例  
では子どもの遊びや、地元出身の作曲家の話が出ていますが、そういっ  
た市史とは全く別の視点で項目建てしていくのもよいかと思います。

委 員

作曲家ではありませんが、今晚放送されるドラマで藤沢周平のことがと  
りあげられます。話は清瀬に住んでいたときのことです。こうした例も  
あります。

副 市 長

昔から今日までのまちの移り変わりを、写真を基本に、より多くの方々  
に手にとってもらえるような形でまとめたいと思います。事務局で骨格  
を作って提示しますので、委員のみなさんからご意見をください。

委 員

子どもを通しての視点での意見です。小学校 3 年生になり、社会科の副  
読本を初めてもらって来ました。ほんとうによくできており、親が家で  
よく読んでいます。ただ、先生方が清瀬の方ではないので、教えること  
が通り一遍、副読本に載っていることだけになってしまうのが残念です。  
机の上で学ぶことと実生活が繋がっていないのです。ボランティアの



方が将棋や昔遊びを教えて下さるのですが、そうした活動のなかで、郷土かるたをやれば郷土のことも学ぶことができると思います。地域にはとても良い行事やイベントがいろいろあるのに、それがつながっていないと感じます。少し意識するだけで市制施行 50 周年につながるのではないかと思います。歴史と現実の生活が結びつくような企画があればと思います。

- 委員 自然についても同じことが言えます。野外の自然を学ぶということがほとんどない。学校の先生には地元の事を詳しく知っていてほしいです。
- 委員 今度作るものが、学びと実生活をつなぐきっかけになるといいですね。
- 委員 冊子体にするかどうかよく検討した方が良いでしょう。音声や映像は、市史のなかにはほとんど載せられないと思うので、郷土の活動、あそび、自然といったものを映像や音をまじえて配信できれば、見る人の数が違ってくると思います。
- 委員長 音声といえば、方言のイントネーションも、所沢と清瀬で違っていたのが今はわからなくなっています。貴重な意見をありがとうございました。市制施行 50 周年の取り組みを、全体としてどうするかという問題、ここで記念誌をつくるという形でどうするか、それを一緒にした形で記念誌をどう位置付けるか、といったことでいろいろなご意見をいただいたと思います。市の方で受け止めていただければと思います。
- 委員 市制施行 50 周年記念誌ですので、市史の本編からは離れて地元出身の委員の人たちが中心になって意見を出し合って作るものがよいと思います。次の時代を担う若い世代が読み込めるような内容で、平易な文章で書かれたものがよいと思います。
- 委員長 さまざまな有益なご意見をありがとうございました。市制施行 50 周年の取り組みについては、ご意見を反映した案を事務局の方で提示していただければと思います。

## 5. その他

### 5-1. 市内調査時の周知方法について

- 委員長 それでは、議題 5「その他」に移ります。事務局からありますか。
- 事務局 今後、専門調査員の方々が市内で調査を行うにあたって、調査をしている証になるようなものが必要ということで、事務局の方で考えてみました。
- 市報などで周知すること、調査先への文書の提示、そのほかに身に着ける証明書のようなものが必要かと考えています。腕章がよいと考えまし

て、表示する文言の例を2つお示しします。ひとつは「調査中」と大きく入れたもの、もうひとつは名刺のようなものを腕章についているカードケース部分にそのまま中に入れて使うものです。

- 委員長 いかがでしょうか。
- 委員 文字が大きい方がわかりやすくてよいと思います。
- 委員 周りにいる一般の人から見て、何かを調べているのだなということが分かるものがよいと思います。
- 委員 腕章なら後ろからも見えてよいと思います。
- 委員 自然の調査をするときには、腕章もつけますが、たとえば雑木林の道路に面した側に「自然環境調査中」という看板を別につるします。林に入っている時にあやしいものだと思われぬよう、二段構えでやっています。
- 委員長 今後考えていきましょう
- 委員 腕章の文言ですが、ひとつは市史編さん室となっていて、もうひとつは部会の名前になっています。使い分ける等、なにか意図があるのですか？
- 事務局 あくまで一案として出しているもので、特段の意図はないです。基本的には、部会という名称よりも清瀬市という名前が出した方が受け入れてもらいやすいという気がいたします。
- 委員長 では、腕章と、加えて看板も考えるということではよろしいでしょうか。
- 委員 了承

## 5-2. アンケート調査について

- 考古部会長 活動計画のなかでアンケート調査を予定しています。古くから畑をお持ちの農家の方が中心になると思いますが、畑でこういうものを拾ったということがあると思います。立川の砂川地区と武蔵村山の調査を別でやっているのですが、驚くような考古資料が少なくありません。旧石器時代の石槍などは、いい形をしているので拾い集めて保管している方もあります。そういうものが清瀬にもあるのではないかと思うので、アンケートのような形で事務局にご協力いただきながら尋ねたいと思います。農家のほかに学校、寺社にもお尋ねしたいです。
- 委員長 事務局とつめていただく形でいかがですか。
- 現代部会長 アンケートについては、近現代部会としても、とりたいです。
- 委員 日枝神社の総代をやっております。三清戸の鎮守で総代が50人近くいまして、昔からの農家も多いので、そこで畑の遺物について呼びかけをしましたが、情報は集まりませんでした。最近では機械で耕すので、鋤を使っていた時代とは事情が異なることもあります。ただ、蔵に入っている

るものもあるでしょうから、まとめてこういうものがないか、という調査用紙を作ってもらえればダメ押しできいてみます。紙で尋ねれば、反応も違うかもしれません。

清戸に限らず下宿、中里、野塩にもそれぞれ神社がありますので、総代に話を持っていくのも一つの方法ですし、また地元の老人会も情報源になると思います。手分けして配布できるので教えてください。

現代部会長 近現代の場合も、古文書はありませんかというとなんな立派なものはないといわれるのですが、質問をしていくと明治や戦前くらいのものであるという答えが返ってくる場合があります。ハードルを低くしてアンケートを作成しますので、高齢者の団体に配ってほしいです。

考古部会長 例えば、石棒（せきぼう）が神社に祭られているケースは多く、いろいろな市町村にあるのですが、それが縄文時代のものだという認識がないところも大半です。ちいさな祠の中に古くから祭られてそのままのものもあります。清瀬には縄文時代の集落がありましたから、可能性があると思います。見本の写真を持ってきますからそれを載せてぜひ聞いてほしいです。

### 5-3.次会委員会について

事務局 次会の日程は10月を考えております。市史編さん委員の任期は2年となっており、この秋には平成26年11月から2年の任期満了の時期を迎えます。編さん委員会の規則では再任を妨げないということになっていますが、再任について不都合がありましたら早めに事務局にご一報ください。会議の具体的な日程につきましては、追って調整させていただきます。

## 6. 閉会

委員長 それでは、以上をもちまして本日の日程は終了いたしました。これで第1回市史編さん委員会を閉会いたします。どうもありがとうございました。

## 平成 28 年度事業予定

- 考古部会
- 古代・中世部会
- 近世部会
- 近代部会
- 現代部会

■ 考古部会【平成 28 年度活動計画】

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
既報告資料基礎調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 博物館収蔵資料調査 (調査員雇用) 出土資料の確認・選定 再資料化の要不要の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 博物館収蔵資料調査 (調査員雇用) 出土資料の確認・選定 再資料化の要不要の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 博物館収蔵資料調査 (調査員雇用) 出土資料の確認・選定 実測・写真撮影(外部委託)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 博物館収蔵資料調査 (調査員雇用) 出土資料の確認・選定 実測・写真撮影(外部委託)</li> </ul>
未公開資料調査等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート調査</li> <li>・ 市外所蔵資料の追跡調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート調査</li> <li>・ 市外所蔵資料の追跡調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未公開資料調査 資料の確認・記録・選定 実測・写真撮影(外部委託)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未公開資料調査 資料の確認・記録・選定 実測・写真撮影(外部委託)</li> </ul>
遺跡現地踏査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地踏査 未調査遺跡の確認と記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地踏査 未調査遺跡の確認と記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古環境調査(地形地質調査、花粉分析)のための予備調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古環境調査(地形地質調査、花粉分析)のための予備調査</li> </ul>
文献収集				
資料編基本構成についての検討				
考古部会打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部会全体会議</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部会全体会議</li> </ul>	

■ 古代・中世部会【平成28年度活動計画】

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
<p>実踏調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八王子城・滝山城 ほか</li> </ul> <p>板碑調査</p> <p>古文書調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米沢市上杉博物館</li> <li>・千葉県立文書館</li> <li>・小山市立博物館</li> <li>・群馬県立歴史博物館</li> <li>・仙台市博物館</li> <li>・あきる野市阿伎留神社</li> <li>・茨城県立歴史館</li> <li>・土浦市立博物館(臼田家)</li> <li>・お茶の水図書館</li> <li>・鎌倉国宝館</li> <li>・国立公文書館</li> <li>・奥多摩町原島文書 ほか</li> </ul> <p>編集会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収録史料の選定</li> <li>・解説の具体化</li> <li>・体裁・書式の検討</li> </ul>	<p>実踏調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滝山城</li> </ul> <p>板碑調査</p> <p>古文書調査</p> <p>編集会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会議(4月)</li> <li>・古代班(6月)</li> <li>・中世前期班(5月)</li> <li>・中世後期班(5・6月)</li> </ul>	<p>実踏調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小山市域</li> </ul> <p>古文書調査</p> <p>編集会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代班(8月)</li> <li>・中世後期班(7・8・9月)</li> </ul>	<p>実踏調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青梅市域</li> <li>・あきる野市域</li> </ul> <p>古文書調査</p> <p>編集会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会議(10月)</li> <li>・古代班(10・12月)</li> <li>・中世後期班 (10・11・12月)</li> </ul>	<p>実踏調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八王子城</li> </ul> <p>古文書調査</p> <p>編集会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代班(2月)</li> <li>・中世後期班 (1・2・3月)</li> </ul>

■ 近世部会【平成 28 年度活動計画】

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
市内史料確認調査	月 1 回×3 博物館収蔵史料調査撮影 作業室保管村野家文書調査	月 1 回×3 博物館収蔵史料調査撮影	月 1 回×3 博物館収蔵史料調査撮影	月 1 回×3 博物館収蔵史料調査撮影
翻刻作業 (翻刻作業を日数換算)		10 日分×3	15 日分×3	15 日分×3
資料編構成の検討	月 1 回×1			月 1 回×3
刊行史料確認調査	月 4 回×3	月 4 回×3	月 4 回×3	月 4 回×3

■ 近代部会【平成 28 年度活動計画】

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
市民からの聞き取り、資料収集 新聞記事収集等 先行研究、資料集等調査 博物館、図書館所蔵資料調査 市役所公文書、都（近県、国）公文書館調査 近現代金石文調査 市内小中学校所蔵資料調査 病院調査 都内市町村所蔵資料（三鷹市等） 慰霊碑・忠魂碑等 悉皆調査（広報など）				



■ 現代部会【平成 28 年度活動計画】

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
市民からの聞き取り、資料収集	市民からの聞き取り、資料収集	市民からの聞き取り、資料収集	市民からの聞き取り、資料収集	市民からの聞き取り、資料収集
新聞記事収集等	要再検討			
先行研究、資料集等調査	先行研究、資料集等調査	先行研究、資料集等調査	先行研究、資料集等調査	先行研究、資料集等調査
博物館、図書館所蔵資料調査	博物館所蔵史料調査	博物館所蔵史料調査	博物館所蔵史料調査	博物館所蔵史料調査
市役所公文書、都（近県、国） 公文書館調査	調査態勢が整い次第着手			
近現代金石文調査	市内巡見			